

入選 静岡県 高橋 涼介 様 (高校生 男性)

私は小学五年生のときに母が、中学二年生のときに父が亡くなりました。両親が亡くなったことは、私に大きな絶望を与えました。そして私は「遺族年金」を受給しています。しかし、私は年金制度について先日まで全く知りませんでした。年金と聞くと「高齢になったとき受けとることができるもの」という程度の認識しかありませんでした。そして、高校三年生になり、学校で年金講座を聞いたときに初めて年金には障害年金や遺族年金があること、自分が遺族年金を受給していることを知りました。

今、私は私立高校に在籍しています。私は高校入学を機に、亡き両親に恥ずかしくないように、誇れるような自分でいたいと思い、勉強を一生懸命頑張りました。その結果、学内で上位の成績を取ることができるようになりました。また、それまで前に出ることを恐れていた自分を変えたくて生徒会に入り、二年間仕事に取り組みました。そしてついに、生徒会長にまでなりました。そして、今では大学の進学を考え、塾に通っています。しかし、大学への進学、塾の利用は莫大なお金がかかります。だから、この選択をするときは大いに悩みました。「うちの家計で進学できるのか」、「働いた方がいいのかも」と。しかし、私の伯父は「お前が勉強したいならお金をだす」と言ってくれました。そして、それは私が、自分で、その意志で未来を選ぶ権利を得たということでした。

私が今、目標を持ち、未来に向かって歩くことができるのは良くも悪くも両親の死がきっかけです。両親が亡くなったときには絶望しましたが、今の自分を考えると運命だったのかもしれないと納得できています。そして、両親の死という絶望から立ち直れても、現実としてお金がなければ何も出来ません。だから、年金は私の意志を実現する上で大きな助けになっています。年金がなければ今の自分はいません。

そして、私は大学へ進学し、経済について勉強したいと考えています。経済学部ではお金の視点から社会を見ていくと思います。そのなかで社会制度として年金が社会においてどのような役割を成しているのかということも勉強していくと思います。年金制度について詳しく知るとともに、社会人となる準備をしていき、社会に恩返しをしていきたいです。そして自分と同じように前に進みたいと思っている学生や社会人を支える一員になりた

いです。